

シラバス

2024年度版



鍼灸医療科第二部 2年

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門医療専門学校

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	國分 壮一 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	鍼灸応用実技Ⅲ	曜日・時間	月曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 基本的な経穴への刺鍼・施灸を学習・訓練してもらいます。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション①
2	オリエンテーション②
3	① 1) 上肢における刺鍼の実際
4	② 1) 上肢における刺鍼の実際
5	③ 1) 上肢における刺鍼の実際
6	④ 1) 上肢における刺鍼の実際
7	① 5) 下肢部における刺鍼の実際
8	② 5) 下肢部における刺鍼の実際
9	③ 5) 下肢部における刺鍼の実際
10	④ 5) 下肢部における刺鍼の実際
11	① 2) 肩部における刺鍼の実際
12	② 2) 肩部における刺鍼の実際
13	③ 2) 肩部における刺鍼の実際
14	前期実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	① 3) 体幹前面における刺鍼の実際
2	② 3) 体幹前面における刺鍼の実際
3	③ 3) 体幹前面における刺鍼の実際
4	④ 3) 体幹前面における刺鍼の実際
5	① 4) 体幹背面部における刺鍼の実際
6	② 4) 体幹背面部における刺鍼の実際
7	③ 4) 体幹背面部における刺鍼の実際
8	④ 4) 体幹背面部における刺鍼の実際
9	⑤ 4) 体幹背面部における刺鍼の実際
10	⑥ 4) 体幹背面部における刺鍼の実際
11	① 6) 頭・顔面部における刺鍼の実際
12	② 6) 頭・顔面部における刺鍼の実際
13	6. 主な反応点の種類
14	後期実技試験
15	評価点検

評価方法	出席・定期試験(2回実施)により評価する。
授業の進め方	配布するプリントとプレゼンテーションにより行う。
注意 (学生に望むこと)	経穴への取穴と刺入・施灸を習得してもらう。
テキスト・参考書	指定された教科書とテキストを用いる。

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	今野 弘務 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	東洋医学各論 I	曜日・時間	月曜日 19:15～

【授業概要・目標】

- 1、身体の生理作用の知識をより深める
- 2、病証、病因、病機の習得
- 3、四診の習得

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	肝の病証 (p81～84) 胆の病証 (p84) 肝と胆の相互関係 (p85)	1	望診(望神など) (p201～212)
2	心の病証 (p90～94) 小腸の病証 (p94～95) 心と小腸の相互関係 (p95)	2	望診(舌診など) (p201～212)
3	脾の病証 (p100～102) 胃の病証 (p103～104) 脾と胃の相互関係 (p105～106)	3	聞診 (p213～218)
4	肺の病証 (p110～113) 大腸の病証 (p114) 肺と大腸の相互関係 (p114)	4	問診(寒熱など) (p219～225)
5	腎の病証 (p120～123) 膀胱の病証 (p123～124) 腎と膀胱の相互関係 (p124)	5	問診(飲食、睡眠など) (p225～228)
6	五臓の相互関係① (p127～142)	6	問診(二便など) (p228～232)
7	五臓の相互関係② (p127～142)	7	問診(身体各部位の症状など) (p232～238)
8	五臓の相互関係③ (p127～142)	8	問診(汗など) (p238～240)
9	五臓の相互関係④ (p127～142)	9	問診(疼痛など) (p240～244)
10	全身の気機① (p143～149)	10	問診(女性など) (p244～248)
11	経絡 (p150～160)	11	切診(腹診、背診など) (p249～255)
12	病因病機① (p161～180)	12	切診(脈診など) (p255～267)
13	病因病機② (p161～180)	13	切診(脈診など) (p255～267)
14	病因病機③ (p161～180)	14	「四診」のまとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)	◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検	15	評価点検

評価方法	評価は前期・後期試験の点数を基本とし、小テスト、平常点を加味して評価する。
授業の進め方	授業の進め方は、基本的に教科書通りとする。
注意 (学生に望むこと)	東洋医学は、馴染みのない理論、哲学のため、それを「信じる」「信じない」に関わらず、まずはその内容を理解するよう努めてほしい。
テキスト・参考書	東洋医学概論

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	運動学	曜日・時間	火曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 臨床の治療で必須となる、人の運動・動作を詳細に理解する為の基礎の知識を学びます。人体の解剖を詳細にイメージ化できる様になる為に、授業内容をシステム化してあります。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 運動学1
2	運動学の基礎
3	姿勢とその異常
4	脳の解剖と機能
5	脳幹部の解剖 脊髄の解剖
6	反射とは？ 原始反射 etc
7	連合反応 フィードバック・フィードフォワード
8	中枢神経復習 身体各部の機能
9	肩部 肩甲骨 肩甲骨上腕リズム
10	前腕・手指の解剖と動き
11	骨盤 股関節の機能
12	膝関節の機能
13	足の機能
14	歩行について
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	前期評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	指・前腕の解剖1とその運動学
2	指・前腕の解剖学2
3	上腕・肩甲帯の筋肉 筋名と起始・停止
4	上腕・肩甲帯の筋肉 イメージ化
5	足部・下腿部の筋肉名 起始・停止部
6	足部・下腿部の筋肉名 イメージ化
7	臀部・大腿部の筋肉 名称と部位
8	臀部・大腿部の筋肉 イメージ化
9	腰部・腹部の筋肉名 名称と部位
10	腰部・腹部の筋肉 イメージ化
11	胸部・背部の筋肉名 名称と部位
12	胸部・背部の筋肉 イメージ化
13	頭頸部の筋肉 名称と部位
14	頭頸部の筋肉 イメージ化
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	後期評価点検

評価方法	記憶しているかどうかではなく、知識が使えるものになっているかどうかを見ます。
授業の進め方	予習・復讐で得た知識を毎回試します。
注意 (学生に望むこと)	将来の治療行為に向かったの実力を付けるという強い意志を持って臨んで下さい。
テキスト・参考書	リハビリテーション医学(運動学)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	鍼灸応用実技 I	曜日・時間	火曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 整形外科医が診察で使っている、運動器の障害や損傷の部位・組織が何処なのかの診断ができるように、知識と動作を体現できるようになってもらいます。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 検査法の理解
2	頸部 損傷の理解 症状
3	頸部の検査法
4	頸部症状への鍼灸治療
5	肩部 損傷の理解 症状
6	肩部の検査法
7	肩部症状への鍼灸治療
8	上肢 損傷の理解 症状
9	上肢の検査法
10	上肢部症状への鍼灸治療
11	腰部 損傷の理解 症状
12	腰部の検査法
13	腰部症状への鍼灸治療
14	膝関節部の理解と検査法
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	頸部 損傷の理解
2	症例から考える 1
3	症例から考える 2
4	肩部 損傷の理解
5	症例から考える 1
6	症例から考える 2
7	上肢 損傷の理解
8	症例から考える 1
9	症例から考える 2
10	腰部 損傷の理解
11	症例から考える 1
12	症例から考える 2
13	膝関節部 損傷の理解
14	症例から考える 1
15	評価点検

評価方法	症状理解に必要な検査法が何かを判断でき、正確な検査法ができるかを見ます。
授業の進め方	実力が付くように、繰り返し繰り返し、反復して、身に付けてもらいます
注意 (学生に望むこと)	知っている・出来るではなく、当たり前知識と動作となるよう努力してください
テキスト・参考書	検査法テキスト

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	三保 翔平 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	東洋療法診断法 I	曜日・時間	水曜日 17:40～

【授業概要・目標】 東洋医学の施術において必要となる診断法の習得。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	鍼灸臨床の流れ
2	基本的な問診の仕方
3	腰痛の主要疾患
4	腰痛の問診
5	腰痛の診察法
6	坐骨神経痛の主要疾患
7	坐骨神経痛の問診
8	坐骨神経痛の診察法
9	膝関節痛の主要疾患
10	膝関節痛の問診
11	膝関節痛の診察法
12	頸肩四肢痛の主要疾患
13	頸肩四肢痛の問診
14	頸肩四肢痛の診察法
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	四診の概要、望診
2	舌診
3	聞診
4	問診(主訴の聴き方)
5	問診(寒熱)
6	問診(飲食・睡眠)
7	問診(飲食・睡眠)
8	問診(情志・生活環境)
9	問診(身体各部位の症状・汗)
10	問診(疼痛)
11	問診(女性・既往歴・家族歴・小児)
12	切診(反応・切経)
13	切診(腹診)
14	後期の復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の点数
授業の進め方	板書、パワーポイントの活用
注意 (学生に望むこと)	板書の記録
テキスト・参考書	前期:問診・診察ハンドブック、後期:東洋医学概論

2024年度 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	三保 翔平 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 2年
科目名	臨床経穴論	曜日・時間	水曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 経絡経穴の基礎知識を深める事と、臨床的な知識を身に付ける。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	鍼灸臨床の流れ 実技
2	基本的な問診の仕方 実技
3	腰痛の主要疾患 実技
4	腰痛の問診・診察法 実技
5	腰痛の治療法
6	坐骨神経痛の主要疾患 実技
7	坐骨神経痛の問診・診察法 実技
8	坐骨神経痛の治療法
9	膝関節痛の主要疾患 実技
10	膝関節痛の問診・診察法 実技
11	膝関節痛の治療法
12	頸肩四肢痛の主要疾患 実技
13	頸肩四肢痛の問診・診察法 実技
14	頸肩四肢痛の治療法
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	奇経 衝脈・陰維脈
2	奇経 帯脈・陽維脈
3	奇経 督脈・陽蹻脈
4	奇経 任脈・陰蹻脈
5	奇穴
6	奇穴
7	身体部位に基づく配穴法
8	特定穴による配穴法
9	臨床的な経穴の運用
10	治法八法、虚証の治法と配穴
11	実証の治法と配穴
12	臓腑に対する治法と配穴
13	六淫に対する治法と配穴
14	症候に対する治法と配穴
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の点数
授業の進め方	板書、パワーポイントの活用
注意 (学生に望むこと)	板書の記録
テキスト・参考書	経絡経穴概論

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	臨床医学各論 I	曜日・時間	木曜日 19:15～

【授業概要・目標】 各疾患についての疫学、成因、症状などを学習する。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	感染症 I
2	感染症 II
3	感染症 III
4	消化器疾患 I
5	消化器疾患 II
6	消化器疾患 III
7	消化器疾患 IV
8	肝・胆・膵疾患 I
9	肝・胆・膵疾患 II
10	肝・胆・膵疾患 III
11	呼吸器疾患 I
12	呼吸器疾患 II
13	呼吸器疾患 III
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腎・泌尿器疾患 I
2	腎・泌尿器疾患 II
3	腎・泌尿器疾患 III
4	内分泌疾患 I
5	内分泌疾患 II
6	代謝・栄養疾患
7	循環器疾患 I
8	循環器疾患 II
9	循環器疾患 III
10	循環器疾患 IV
11	血液・造血疾患 I
12	血液・造血疾患 II
13	血液・造血疾患 III
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験(小テスト50点+期末テスト50点)
授業の進め方	板書・配布資料 教科書に基づいてプリントを進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意 (学生に望むこと)	身体の構造と機能をもとに疾患の理解を深める
テキスト・参考書	テキスト:臨床医学各論 参考書:病気がみえる

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	鍼灸応用実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日 19:15～

【授業概要・目標】 ・代表的な体表指標がとれるようになる。 ・要穴の正確な取穴ができるようになる。 ・丁寧な刺鍼、施灸ができるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	刺鍼・施灸の基本実技確認
2	体表指標の復習
3	体表指標の取り方と背部愈穴 ①
4	体表指標の取り方と背部愈穴 ②
5	体表指標の取り方と背部愈穴 ③
6	体表指標の取り方と背部愈穴 ④
7	体表指標の取り方と背部愈穴 ⑤
8	前期中間実技試験
9	原絡配穴法 ①
10	原絡配穴法 ②
11	原絡配穴法 ③
12	原絡配穴法 ④
13	原絡配穴法 ⑤
14	前期実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期実技試験の復習
2	鍼灸の補瀉説明と実技
3	難行六十九難の説明と実技
4	六十九難の取穴と施術 ①
5	六十九難の取穴と施術 ②
6	六十九難の取穴と施術 ③
7	六十九難の取穴と施術 ④
8	六十九難の取穴と施術 ⑤
9	六十九難の取穴と施術 ⑥
10	後期中間実技試験
11	五愈穴・五要穴の取穴と施術 ①
12	五愈穴・五要穴の取穴と施術 ②
13	五愈穴・五要穴の取穴と施術 ③
14	後期実技試験
15	評価点検

評価方法	前期:実技試験による、後期:実技試験による その他:出席状況、授業態度なども考慮する
授業の進め方	教科書・シラバスに基づいて進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意 (学生に望むこと)	(1)毎日、コツコツ練習をしてください。 (2)態度・言葉遣い・白衣汚れ・身なりに気を付け、授業後は掃除をすること。
テキスト・参考書	『新版 経絡経穴概論』(医道の日本社)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	大森 駿之介	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	社会学(半期)	曜日・時間	前期) 金曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 社会学の基礎概念を学び、それを医療と関連づけて考えることにより、医療者の社会的責任を自覚する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	社会学とはどんな学問か
2	社会学の基礎概念
3	社会学の視点
4	保健医療と社会学(1)
5	保健医療と社会学(2)
6	健康とは何か・健康と社会格差
7	患者—医療者関係
8	保健医療の専門職
9	性・ジェンダー、家族(1)
10	性・ジェンダー、家族(2)
11	性・ジェンダー、家族(3)
12	地域社会と保健医療
13	福祉国家と保健医療
14	ケアと医療
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	/
2	/
3	/
4	/
5	/
6	/
7	/
8	/
9	/
10	/
11	/
12	/
13	/
14	/
◆	/
15	/

評価方法	学期末に筆記試験を行い評価する。
授業の進め方	主に教科書に沿って講義を行うが、途中で講師が作成した資料を使う場合もある。
注意 (学生に望むこと)	講義で出てくる用語がわからない時には、メモして後に自分で調べてみる事。
テキスト・参考書	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	高崎 駿士	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	漢文学(半期)	曜日・時間	後期) 金曜日 17:40～

【授業概要・目標】 ・基本的な漢文読解能力を得る。 ・『靈枢』等の古代中国医学書に関する基本的知識を得る。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	ガイダンス
2	漢字の成立(第二、三章)
3	基本文法と訓読法(第四、五章)
4	短文読解 其一(第六章)
5	短文読解 其二(第六章)
6	短文読解 其三(第六章)
7	『靈枢』の読解 其一
8	『靈枢』の読解 其二
9	『靈枢』の読解 其三
10	『靈枢』の読解 其四
11	演習 其一
12	演習 其二
13	演習 其三
14	演習 其四
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	試験と授業中の発表・課題提出によって評価する。
授業の進め方	テキストを中心に、適宜配布資料を用いて進める。
注意 (学生に望むこと)	積極的に授業に参加すること。
テキスト・参考書	浦山きか『漢文で読む『靈枢』～基礎から応用まで～』(アルテミア・2006)、その他(授業中に紹介する)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	高橋 武彦 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	臨床医学総論	曜日・時間	金曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 身体構造や機能を理解したうえで、鍼灸臨床に必要な診察知識、技術を身に付ける。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 第1章 診察の概要
2	第2章 診察の方法 (1)
3	第2章 診察の方法 (2)
4	第2章 診察の方法 (3)
5	第3章 生命徴候の診察
6	第4章 全身の診察 (1)
7	第4章 全身の診察 (2)
8	第4章 全身の診察 (3)
9	第4章 全身の診察 (4)
10	第5章 局所の診察 (1)
11	第5章 局所の診察 (2)
12	第5章 局所の診察 (3)
13	第5章 局所の診察 (4)
14	前期総合復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第6章 神経系の診察 (1)
2	第6章 神経系の診察 (2)
3	第7章 運動機能検査 (1)
4	第7章 運動機能検査 (2)
5	第7章 運動機能検査 (3)
6	第8章 その他の診察
7	第9章 臨床検査法
8	第10章 おもな症状の診察法(1)
9	第10章 おもな症状の診察法(2)
10	第10章 おもな症状の診察法(3)
11	第10章 おもな症状の診察法(4)
12	第10章 おもな症状の診察法(5)
13	第10章 おもな症状の診察法(6)
14	後期総合復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席、定期試験、授業態度、小テスト、課題提出の総合判定とする。
授業の進め方	教科書を中心にポイントを確認する。解剖的な構造、機能を復習する。
注意 (学生に望むこと)	教科書の内容、語句を確認し、理解度を深めるための努力をする。
テキスト・参考書	臨床医学総論、その他解剖学、生理学、運動学等

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	黄 淵 熙	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	心理学	曜日・時間	土曜日 13:10～

【授業概要・目標】

心理学の主に基礎的分野に関する代表的な理論を中心とし、心理学全般における基礎知識の習得と理解を目的とする。前期では、知覚、記憶、知能、学習など認知心理学と発達心理学の領域を中心とする。後期では、心理学の応用分野に関する知識を習得することを目的とし、心の発達、社会のなかでの人間、適応への援助など社会心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学の領域を中心とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	心理学とは。心理学の領域
3	知覚
4	記憶1(記憶の種類)
5	記憶2(記憶と老化)
6	学習1(古典的条件付け)
7	学習2(動機づけ)
8	知能(遺伝か環境か)
9	知能検査の概要
10	知能検査の実際
11	欲求
12	生涯発達理論
13	認知発達
14	言語発達
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	心の発達(愛着、心の理論)
2	発達障害
3	社会と人間1(対人認知)
4	社会と人間2(対人魅力)
5	社会と人間3(社会的影響)
6	社会と人間4(態度)
7	社会と人間5(集団と個人)
8	社会と人間6(愛他的行動)
9	社会と人間7(攻撃行動)
10	パーソナリティとは
11	性格の測定
12	ストレスとサポート
13	心理的援助
14	アンガーマネジメント
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席状況30%、試験70%
授業の進め方	授業内容の提示はスライドによる。スライドに提示されていない内容に関しては各自配布資料にメモを取るようにする。
注意 (学生に望むこと)	授業後に復習を行うこと
テキスト・参考書	適宜資料を配布する

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	伊東 太郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	病理学概論	曜日・時間	土曜日 14:50～

【授業概要・目標】 (1) 病理学の基本の習得 (2) 生理学の復習

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	第1章 病理学とはどのような学問か
3	第2章 疾病についての基本的な考え方
4	第3章 病因 (1)
5	第3章 病因 (2)
6	第3章 病因 (3)
7	第3章 病因 (4)
8	第3章 病因 (5)
9	第4章 循環障害 (1)
10	第4章 循環障害 (2)
11	第4章 循環障害 (3)
12	第5章 退行性病変 (1)
13	第5章 退行性病変 (2)
14	前期学習内容の復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期内容の確認試験
2	第6章 進行性病変 (1)
3	第6章 進行性病変 (2)
4	第7章 炎症 (1)
5	第7章 炎症 (2)
6	第7章 炎症 (3)
7	第8章 腫瘍 (1)
8	第8章 腫瘍 (2)
9	第8章 腫瘍 (3)
10	第8章 腫瘍 (4)
11	第9章 免疫異常・アレルギー (1)
12	第9章 免疫異常・アレルギー (2)
13	第10章 先天性異常
14	後期学習内容の復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

評価方法	小テスト等(50%) + 期末試験(50%)を総合して評価。
授業の進め方	・教科書の内容を中心にスライドで講義。・毎回の小テストで理解を深める。
注意 (学生に望むこと)	・A4ファイルを1冊用意すること。 ・分からないところはそのままにせず、調べてみる。
テキスト・参考書	『病理学概論』(東洋療法学校協会編)・配布プリント

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	糟谷 俊彦 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	手技療法Ⅱ	曜日・時間	土曜日 16:30～

【授業概要・目標】
 基本的な全身指圧ができるようにし、治療に必要な矯正手技(関節モビライゼーション)を知り、臨床について、考えられるようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	指圧の意義、押圧操作、3原則、圧法、背部の指圧、撫擦法、脊椎触察、手掌圧、母指圧
2	背部指圧、肩甲間線、骨盤、臀部
3	背部、臀部、下肢部
4	背部、臀部、下肢部、後頭部、後頸部
5	背部、臀部、下肢部、後頭部、後頸部、前頭部、顔面部、前頸部
6	背部、臀部、下肢部、後頭部、後頸部、前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、胸部
7	背部、臀部、下肢部、後頭部、後頸部、前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、下肢前面部
8	背、臀、下肢、後頭、後頸、前頭、顔面、前頸、上肢、下肢前面、胸、腹部
9	背、臀、下肢、後頭、後頸、前頭、顔面、前頸、上肢、下肢前面、胸、腹、側、座位
10	指圧一伏臥位、関節モビライゼーションについて、直接法、注意事項
11	指圧一仰臥位、側臥位、座位、モビライゼーション・指関節
12	指圧一伏臥位、モビライゼーション・手根中手関節、手関節
13	指圧一仰臥位、側臥位、座位モビライゼーション・手関節
14	前期試験(実技試験)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	指圧復習、モビライゼーション・尺骨、肘関節
2	指圧復習、モビライゼーション・肩関節
3	指圧復習、モビライゼーション・趾関節、足骨中足関節
4	指圧復習、モビライゼーション・楔舟、距舟関節、距腿、距骨下関節、
5	指圧復習、モビライゼーション・膝関節、股関節
6	指圧復習、モビライゼーション・仙骨、腰椎、胸椎、肋骨
7	指圧復習、モビライゼーション・頸椎、間接法について
8	指圧復習、モビライゼーション・直接法復習、間接法
9	指圧復習、モビライゼーション・直接法復習、間接法
10	指圧復習、モビライゼーション・直接法復習、間接法
11	指圧復習、モビライゼーション・直接法復習、間接法
12	指圧復習、モビライゼーション・直接法復習、間接法
13	指圧復習、モビライゼーション・直接法復習、間接法
14	後期試験(実技試験)
15	評価点検

評価方法	実技試験・・・65点以上
授業の進め方	指圧、関節モビライゼーションの実技を主に行う
注意 (学生に望むこと)	指圧、関節モビライゼーションを、鍼灸の臨床に、応用できるようにする。
テキスト・参考書	指圧は、プリント、 関節モビライゼーションは、ノンスラストによる関節モビライゼーション(緑書房)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	臨床実習Ⅱ	曜日・時間	一曜日 一時限

【授業概要・目標】
 ①患者と適切なコミュニケーションがとれる。 ②施術準備ができる。 ③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	-
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	-
12	-
13	-
14	-
◆	-
15	-

評価方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。
テキスト・参考書	なし

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸医療科第二部 2年
科目名	臨床実習Ⅲ	曜日・時間	一曜日 一時限

【授業概要・目標】 ①患者と適切なコミュニケーションがとれる。 ②施術準備ができる。 ③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	-
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	-
12	-
13	-
14	-
◆	-
15	-

評価方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。
テキスト・参考書	なし

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	業務内容
運動学	2	60	吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
病理学概論	2	60	伊東 太郎	5年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
臨床医学総論	2	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
臨床医学各論Ⅰ	2	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅰ	2	60	今野 弘務	10年以上	治療院に勤務した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
臨床経穴論	2	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋療法診断法Ⅰ	2	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅰ	2	60	吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅱ	2	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅲ	2	60	国分 壮一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
手技療法Ⅱ	2	60	糟谷 俊彦	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床医学各論Ⅱ	3	60	國分 俊繁	10年以上	治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
リハビリテーション医学	3	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
鍼灸理論Ⅰ	3	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅱ	3	60	浦山 久嗣	30年以上	治療院を開業した経験を持つ。
東洋医学臨床論Ⅰ	3	60	神成 有己	5年以上	治療院で勤務した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅱ	3	60	川嶋 睦子	20年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅲ	3	60	國分 俊繁	10年以上	治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
東洋医学応用概論	3	60	伊東 太郎	5年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅰ	3	60	国分 壮一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅱ	3	60	川嶋 睦子	20年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅲ	3	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅳ	3	60	今野 弘務	10年以上	治療院に勤務した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
合計		1380			